

| | | | | | | | |
|--------------------|---|---|----|---------------|--------|------|----|
| 科目名 Course Name | 生活支援技術Ⅲ Independent Living Skill III | | | ナンバリング No. | J1-009 | | |
| 年次 | 1年 | 期別 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 |
| 担当者氏名 | 和田晴美 | | | | | | |
| 連絡方法 | C-ラーニング に対応。または福祉棟 2F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(介護福祉士養成課程必修) | | | | | | |
| 関連 DP | DP1、DP2、DP3 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>生活支援技術Ⅲでは、「こころとからだのしくみⅡ」で学んだことを基本に、生命と健康の維持のための、食事および排泄の意義と目的について学習し、自立に向けた支援を行うための基本技術を習得する。</p> <p>①食事と排泄の意義を、列挙できるようにする。 ②基本的な食事、排泄の支援方法と留意点を説明できるようにする。 ③演習での利用者役やおむつ体験を通し、利用者に合わせて支援方法を選択できるようにする。 ④臥床している人のプライバシーに配慮し、安全・安楽・的確なおむつ交換ができるようにする。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 講義・演習を通して、食事・排泄の意義と目的、安全で的確な支援方法、利用者のアセスメント、利用者の状態・状況に応じた支援の留意点などを講義・演習・ディスカッションを通して学習する。学生は利用者役、介護者役を体験しながら実技を学んでいくが、単に手順を覚えることに集中するのではなく、利用者の立場から介護を受けとめ、より良い方法を考えていく機会としたい。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | 演習を通して、自分自身の生活支援技術の不足部分を明確にし、技術向上のための練習に真摯に取り組むことができる。 | | | | | |
| | L02 | 食事と排泄の意義と目的を明確にし、食事および排泄の支援に関する基礎知識を習得し、安全で的確な食事および排泄支援を、基本をふまえて実施することができる。 | | | | | |
| | L03 | | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 演習後の振り返り用紙は、グループディスカッションの際の資料とし、自らの意見を述べ他者の意見を聞くことで学びを深める。実技試験の結果は、評価者からのコメントを入れ、返却する。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | ①最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」第8巻「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 演習時は身だしなみを整えること。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|---|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 授業の準備(演習時の整容を含む)が整い、講義は集中し、疑問点は質問して解決できる。ディスカッションでは他者の意見を聴き、自ら積極的に発言して学びを深められること。 | 10 | | | |
| レポート/作品 | 演習振り返り用紙で評価する。評価基準Sは、演習を振り返り、自身の学びを客観的に記述でき、介護に対する抱負が述べられること。 | | 40 | | |
| 発表 | グループディスカッションの内容や結果を、簡潔にわかりやすく伝える。 | 10 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | 実技試験(おむつ交換)を行う。実技試験の評価の視点は、生活支援技術マニュアルを参照。 | | 20 | | |
| その他 | 「おむつ体験レポート」を課す。評価基準Sは、課題を十分に理解し、適切かつ正確な資料で分かりやすく工夫した内容構成であること。 | 20 | | | |
| 合計 | | 40 | 60 | | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|--|
| 1 | 授業内容 | ガイダンス(シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法の説明) 自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 介護者の役割 |
| | 事前・事後学習 | 食事に関する、前・中・後の観察項目を調べ、ノートに挙げてくる。 |
| 2 | 授業内容 | 食事に関する利用者のアセスメント 利用者の状態・状況に応じた食事支援の留意点 |
| | 事前・事後学習 | 演習に向けて、食事の支援をする際の留意点を調べ、ノートに記載する。 |
| 3 | 授業内容 | 安全で的確な食事の支援 <課題① 振り返り用紙>【演習①】 |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル 課題①の記載をする。 |
| 4 | 授業内容 | 利用者の状態・状況に応じた食事の支援 視覚障害 咀嚼・嚥下機能障害 運動機能障害 <課題② 振り返り用紙>【演習②】 |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル 課題②の記載をする。 |
| 5 | 授業内容 | 食事支援のまとめと補足 【グループディスカッション ①②の演習振り返り】 |
| | 事前・事後学習 | グループディスカッションを通して確認した、食事の支援での留意点や学びを整理して記載する。 |
| 6 | 授業内容 | 自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的、介護者の役割 |
| | 事前・事後学習 | 排泄に関する、観察項目を調べ、ノートに挙げてくる。 |
| 7 | 授業内容 | 排泄に関する利用者のアセスメント 安全で的確な排泄の支援 利用者の状態・状況に応じた排泄支援の留意点 |
| | 事前・事後学習 | 演習に向けて、排泄の支援をする際の留意点を調べ、ノートに記載する。 |
| 8 | 授業内容 | 利用者の状態・状況に応じた排泄の支援① おむつ交換 【演習③】 <課題③ 振り返り用紙 提出は第 9 回> <課題④ おむつ体験レポート 提出は第 12 回> |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル 課題③の記載をする。おむつ体験レポートの作成。 |
| 9 | 授業内容 | 利用者の状態・状況に応じた排泄の支援② おむつ交換 【演習④】 |
| | 事前・事後学習 | おむつ体験レポートの作成。 |
| 10 | 授業内容 | 利用者の状態・状況に応じた排泄の支援③ ベッド上排泄 【演習⑤】 <課題⑤ 振り返り用紙 提出は第 11 回> |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアル 課題⑤の記載をする。 |
| 11 | 授業内容 | 利用者の状態・状況に応じた排泄の支援④ ポータブルトイレ 【演習⑥】 |
| | 事前・事後学習 | ポータブルトイレの介助について、学んだことをノートに記載する。 |
| 12 | 授業内容 | 排泄の演習、おむつ体験振り返り 【グループディスカッション】 |
| | 事前・事後学習 | グループディスカッションを通して確認した、排泄の支援での留意点や学びを整理して記載する。 |
| 13 | 授業内容 | 利用者の状態・状況に応じた排泄の支援⑤ 自由練習 【演習⑦】 |
| | 事前・事後学習 | 生活支援技術マニュアルの練習用チェックリストを確認しながら、3 回以上実技を行う。 |
| 14 | 授業内容 | 実技の確認(おむつ交換)、自己評価 |
| | 事前・事後学習 | 実技試験を終えて、自己評価表を記載する。 |
| 15 | 授業内容 | 授業のまとめ グループディスカッションの発表 排泄支援のまとめと補足 |
| | 事前・事後学習 | 実習までにおむつ交換が的確にできるよう、チェックリストを確認しながら自己練習を繰り返す。 |